

## ほごねこたお

二年 佐野和寿

ほくのおばあちゃんの家には、ほごねこだったたおというねこがいます。おばあちゃんがさとおやになつてそだてているねこです。

ほごねことは、お家がなく、かい主がないねこたちが一時できにほごされて生活しているねこのことです。里親とは、ほけんじよや、ボランティアのもとで、一時できにほごされているねこの、あたらしい家ぞくのことです。

たおは、ほくや、おばあちゃんがいつているびようしさんがほごしていました。見に行った時に、家の中にタオルがたくさんありました。そのタオルの、るの文字をなくして、たおと、ほくが名前をつけました。

たおは、台風の中、外にすてられていて、ずぶぬれでいたそうです。けだまもたくさんあって、ひっぱられていたくてあるけなかつたとききました。家につれてきてから、まだのこつていたけだまをみんなとつてあげました。

外でたおは、

「だれかいないかな、気づいてほしいな。さむくてさびしいな。」

と、思っていたと思います。なので、ほごされた時は、ここならあん心だ、と思ったと思います。

里親として引きとつてから、まい日おばあちゃんの家へ行つてかわいがっています。前はやせていたけど、ごはんもたくさんたべて太つてきました。タオルのたおではなくたぬきのたおになってきました。あたらしく、みかんというねこも引きとつて、いっしょにあそんでいます。たおは、みかんにとつてもやさしいです。今のたおは、ともだちもできて、家ぞくにもやさしくしてもらえて、あん心できて、うれしいと思います。たおがうれしいと、ほくもとつてもうれしいです。